

# 図書館資料収集方針及び収集計画

青森市民図書館

平成15年4月

## 図書館資料収集方針及び収集計画:目次

### 1. 青森市民図書館資料収集方針等

- (1) 基本方針 5
- (2) 資料の選択にあたっての基本的態度 5
- (3) 資料選択の方法等 5
- (4) 資料収集目標水準 5～6
- (5) 資料提供基準 6

### 2. 青森市民図書館資料収集計画

#### 「1」 一般資料

##### (1) 0 部門（総記） 6～7

- ① 収集基準
- ② 収集範囲  
ア 情報科学 イ 図書館 ウ 図書・書誌学 エ 百科事典 オ 年鑑  
カ 博物館 キ 新聞 ク 叢書・全集

##### (2) 1 部門（哲学・宗教） 7

- ① 収集基準
- ② 収集範囲  
ア 哲学 イ 心理学 ウ 倫理・道徳 エ 宗教

##### (3) 2 部門（歴史・伝記・地理） 8

- ① 収集基準
- ② 収集範囲  
ア 日本史 イ 各国史 ウ 地理

##### (4) 3 部門（社会科学） 8～10

- ① 収集基準
- ② 収集範囲  
ア 社会・文化事情・社会評論 イ 社会思想 ウ 政治学 エ 議会  
オ 政党 カ 地方自治 キ 法律 ク 憲法・民法・商法・刑法  
ケ 経済学 コ 経営学 サ 社会学 シ 労働問題 ス 女性問題  
セ 社会福祉 ソ 教育 ハ 冠婚葬祭 ヘ 民族学 フ 国防・軍事

##### (5) 4 部門（自然科学） 10～11

- ① 収集基準
- ② 収集範囲  
ア 科学評論 イ 医学書

##### (6) 5 部門（技術・工学） 11～12

- ① 収集基準
- ② 収集範囲  
ア 技術史・技術論 イ 都市工学 ウ 建築 エ 自動車 オ 原子力  
カ 電気通信・電子工学 キ 生活科学

**(7) 6 部門（産業）** 12～13

① 収集基準

② 収集範囲

ア 農業経済 イ 園芸 ウ 造園・公園 エ ペットの飼い方・家畜の飼育  
オ 森林保護・鳥獣保護・水産保護 カ 商業通信・商業作文・商業語学  
キ 広告・マーケティング ク 貿易 ケ 交通政策・都市交通・交通事故  
コ 鉄道・切手

**(8) 7 部門（芸術・スポーツ）** 13～14

① 収集基準

② 収集範囲

ア 芸術・理論・美学 イ 芸術史・美術史 ウ 美術評論 エ 美術全集  
オ 彫刻・絵画・版画 カ 工芸 キ 舞踊・バレエ ク 演劇  
ケ 古典・芸能 コ スポーツ・体育 サ 趣味・娯楽 シ 音楽

**(9) 8 部門（語学）** 14～15

① 収集基準

② 収集範囲

ア 言語学 イ 話し方・会議法 ウ 日本語 エ あいさつ・スピーチ・手  
紙・論文 オ 外国語 オー1 英語 オー2 韓国語・ドイツ語・フラ  
ンス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語 オー3 その他の言語

**(10) 9 部門（文学）** 15～17

① 収集基準

② 収集範囲

ア 文学理論・作法 イ 文学史 ウ 文学全集 エ 日本文学 オ 詩歌  
カ 戯曲 キ 小説・物語 ク 評論・随筆 ケ 日記・書簡・紀行  
コ ルポルタージュ サ 各国の文学

**「2」 特殊資料**

**(1) 郷土資料** 17～18

① 収集基準

② 収集範囲

**(2) 地域行政資料** 18～19

① 収集基準

② 収集範囲

ア 行政・地方行政 イ 世論調査 ウ 広報・広聴 エ 財政  
オ 議会・選挙 カ 法律 キ 経済 ク 統計 ケ その他

**(3) 海外資料** 19～20

① 収集基準

② 収集範囲

ア 形態

(4) 視聴覚資料 20～21

① 収集基準

② 収集範囲

ア 音楽資料 イ 映像資料 ウ 録音資料

(5) ヤングアダルト資料 21～22

① 収集基準

② 収集範囲

ア 図書 イ 新聞・雑誌 ウ 視聴覚資料 エ パンフレット・リーフレット・ポスター・ミニコミ資料

(6) 障害者・アウトリーチサービス資料 22

① 収集基準

② 収集範囲

ア 点字図書及び雑誌・録音図書及び雑誌・拡大写本 イ 大活字本  
ウ 字幕・手話入りビデオ エ さわる本・布の絵本・おもちゃ  
オ 各種団体機関紙・パンフレット カ 障害者を支援する人々にも役立つ資料を積極的に収集する キ 電子資料等も積極的に収集する  
ク 各関係機関等の所蔵目録を網羅的に収集する

(7) 新聞・雑誌資料 22～23

① 収集基準

② 収集範囲

ア 新聞 イ 雑誌

(8) ビジネス資料 23

① 収集基準

② 収集範囲

(9) 児童資料 23～29

① 収集基準

② 主題別収集範囲

ア 絵本 イ 絵本全般 ウ 知識絵本 エ 赤ちゃん絵本 オ 文学  
カ 幼年文学 キ 創作文学 ク 古典名作 ケ ファンタジー  
コ 昔話 サ ノンフィクション シ 総記 ス 哲学（哲学・心理学・宗教）  
セ 歴史（歴史・伝記・地理） ソ 日本史・世界史 タ 地理  
チ 社会科学（政治・経済・教育・民族） ツ 自然科学（数学・物理・化学・生物・医学）  
テ 地学 ト 医学 ナ 技術（工学・家政学）  
ニ 家政学 ノ 産業ネ 園芸・畜産業 ノ 芸術（芸術・スポーツ・娯楽）  
ハ 美術 ヒ 工作 フ 音楽 ヘ スポーツ ホ 娯楽  
マ 言語 ミ 紙芝居 ム 郷土資料 メ 視聴覚資料 モ 児童文学研究資料  
ヤ 雑誌・パンフレット

(10) 館外サービス資料 29

① 収集基準

② 収集範囲

ア 一般書 イ 児童書

**(11) 電子資料 30**

① 収集基準

② 収集範囲

ア パッケージ系 (CD-RM、FD、DVD等)

イ 通信系 (電子雑誌、オンラインデータベース、ホームページ)

**3. その他**

**図書資料選択の基本ツール 30～31**

① 一般図書・児童図書共通

② 一般図書

③ 児童図書

④ 視聴覚資料

## 1. 青森市民図書館資料収集方針等

青森市民図書館（以下「図書館」という。）で収集する図書資料の選定は、次の方針等に基づき行う。

### (1) 基本方針

- ① 図書館は、市民の基本的人権のひとつである「知る自由」を社会的に保障する機関のひとつである。そのため、市民の要求に基づき資料を収集する。
- ② 図書館法及び図書館条例の定めるところにより、公立図書館の役割である市民の「教養、調査研究、レクリエーション等に資する」資料を収集する。
- ③ 資料の収集は、図書館のサービス機能に準じて、それぞれの機能を充実できるように組織的・網羅的に収集する。
- ④ 図書館の資料は、図書のほか逐次刊行物、視聴覚資料、パンフレット類など多様な形態のものを収集する。ただし、書き込むこと、切り取ること、組み立てることを目的として作られた図書、あるいは著しく破損しやすい図書は原則として収集しない。

### (2) 資料の選択にあたっての基本的態度

市民一人一人の価値観は多様であり、一冊の本に対する評価や、個々の社会的な問題に関する意見も様々である。従って「図書館はすべての検閲に反対する」立場から、資料の選択にあたっては、以下の点を基本的態度とする。

また、寄贈資料の受け入れにあたっても同様である。

- ① 対立する意見のある問題については、バランスを考慮してできるだけ客観的な立場で書かれている資料を幅広く収集する。
- ② 著者の思想的、宗教的、党派的立場にとらわれて、その著作を排除することはしない。
- ③ 図書館職員の個人的関心や好みによって選択しない。
- ④ 個人、組織、団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄し、糾弾を恐れて自己規制をしない。
- ⑤ 図書館の収集した資料がどのような思想や主張をもっていようとも、それを図書館又は、図書館職員が支持していることを意味するものではない。

### (3) 資料選択の方法等

資料の選択は、利用者サービスに従事する図書館職員全員があたる。

- ① 収集する資料の選択調査は、「資料選択委員会」において合議により行い、図書館長が決定する。
- ② 資料選択委員会は、資料別により、ポピュラー、一般、児童、郷土・行政・レファレンス、視聴覚、高齢者・アウトリーチ、逐次刊行物、YA それぞれの担当から選らばれた者及び発注担当者で構成する。

### (4) 資料収集目標水準

図書館は資料・情報の提供機関であり、資料の充実が基本条件であるので、常に新しい資料に充ちていることが市民を図書館に引き寄せることになる。

このことから、国が示した「公立図書館の設置及び運営に関する基準」を踏まえつつ、資料の整備・拡充を図るとともに、新鮮な蔵書を維持するよう更新を行うものとする。

## (5) 資料提供基準

この収集方針に沿わない具体的な要求に対しては、図書館間の相互協力などの方法によって可能な限り図書資料を提供するように努める。

## 2. 青森市民図書館資料収集計画

この収集計画は、「青森市民図書館資料収集方針等」に基づき資料の収集について具体的な基準や範囲を示すものである。

### 「1」一般資料

#### (1) 0 部門(総記)

##### ① 収集基準

- ア 百科事典や年鑑等の参考資料となるものは原則として選定しないが、1冊ものの辞典など必要なものを幅広く収集する。
- イ 全分野を体系的に網羅している叢書・全集は選定し、欠本なく収集する。

##### ② 収集範囲

###### ア 情報科学

- a 入門書・解説書を中心に収集する。
- b 最新の情報を提供できるよう、資料の更新を図る。
- c 個別のソフトウェアの操作マニュアルも収集する。
- d コンピュータのソフトウェアは NDC548 に収める。

###### イ 図書館

- a 図書館学資料は、網羅的に収集する。
- b 国内の図書館、市内の大学図書館、その他類縁機関に関する資料は、幅広く収集する。

###### ウ 図書・書誌学

- a 書誌類・目録類・その他情報検索に役立つものはできる限り収集する。
- b CD-ROM などニューメディアを利用した書誌類は、必要に応じて導入する。

###### エ 百科事典

- a 最も利用されるレファレンス資料であるため、各種のものを収集する。
- b 要求に応じて貸出用複本も用意する。

###### オ 年鑑

レファレンス資料としてよく利用するので、各種のものを収集する。

## カ 博物館

市内及び近隣の博物館や類縁施設に関する資料は、幅広く収集する。

## キ 新聞

過去の新聞記事を調査するため、縮刷版、マイクロフィルム、新聞記事データベースなどの形で収集する。

## ク 叢書・全集

総記としての全集類は、最新性と共に資料の蓄積が要求されるので、保存・除籍状況を十分考慮して収集する。

## (2) 1 部門(哲学・宗教)

### ① 収集基準

ア 哲学・心理学・倫理学・宗教は、各分野の基本書を体系的に選定し、収集する。

イ 著名な哲学者・思想家の全集・著作集・選集を選定し、収集する。

ウ 新しい思想の動向に留意して収集する。

### ② 収集範囲

#### ア 哲学

a 入門書・解説書を中心に基本的な資料を体系的に収集する。

b 主要な叢書類も収集する。

c 日本思想・中国・インド哲学・西洋哲学の各分野にわたって、主要な思想家の著作・著作集、及びそれぞれの思想家に関する研究、伝記などを体系的に収集する。

d 現代の思想家の著作集も収集する。

#### イ 心理学

a 入門書・解説書を中心に収集する。

b 占い、姓名判断、心霊研究などは、古典的な資料を中心に収集し、興味本位のものとは最小限にとどめる。

#### ウ 倫理・道徳

a 入門書・解説書を中心に収集する。

b 人生論・処世法は、利用が多いので話題の作品を中心に収集する。

#### エ 宗教

a 入門書・解説書を中心としながら必要に応じて、研究的なレベルのものまで収集する。

b 特定の宗派（教派）を宣伝及び中傷非難した資料は、収集にあたって十分に考慮する。



### (3) 2 部門(歴史・伝記・地理)

#### ① 収集基準

- ア 利用の多い分野なので、一般向けの読み物をはじめ入門書・解説書・研究書まで、多様なレベルのものを幅広く収集する。
- イ 歴史関係の図書資料は、歴史観の相違を十分考慮し多様な観点に立って、資料を幅広く収集する。
- ウ 通史・時代史・地域史などの叢書類は、幅広く収集する。
- エ 歴史辞典・人名辞典・人名録・地名辞典などの辞典類・便覧・年表・地図などの参考資料は、一般資料として、できる限り収集する。

#### ② 収集範囲

##### ア 日本史

- a 多様なレベルと観点に立って資料を収集する。
- b 歴史資料は基本的なものは収集する。
- c 近現代史資料は、幅広く収集する。
- d 地方史資料は概ね県単位のレベルで収集する。ただし、青森市と青森県に関する資料は、できる限り収集する。

##### イ 各国史

- a 伝記は、日本人・外国人とも幅広く収集する。
- b 被伝者に関して客観的に正確に記述したものを収集する。
- c 伝記及び人物評論で個人を誹謗・中傷した記述の資料は、収集しない。
- d 人名辞典は、できる限り収集する。
- e 人名録は常に最新の版を提供できるよう資料の更新を図る。

##### ウ 地理

- a 地理・地誌関係の図書は、基本的な資料を幅広く収集する。
- b 地図は、用途に応じて各種のものを収集する。
- c 一枚ものの地図は、2万5千分の1を基準として収集し、その他に市街地図・道路地図など必要なものを新しい版で収集する。
- d CD-ROM などニューメディア化した資料も必要に応じて導入する。
- e 姉妹都市・友好都市に関する資料は、積極的に収集する。
- f 旅行案内関係の資料は外国も含めて数種類のガイドブックを収集し、常に正確な資料を提供できるよう更新に留意する。

### (4) 3 部門(社会科学)

#### ① 収集基準

- ア 社会科学は、バランスよく、できるだけ客観的な立場から書かれている資料を収集する。
- イ 各分野の基本的な資料を体系的に収集する。
- ウ 入門書から研究書まで多様なレベルの要求に応じられるよう幅広く収集する。
- エ 日常生活や実務に必要な実用書は、新しい資料を数多く収集する。
- オ 新しく生まれる社会的諸問題に関する資料は、積極的に収集する。

## ② 収集範囲

### ア 社会・文化事情・社会評論

- a 日本及び外国の社会・文化事情に関する資料は、新しいものを幅広く収集する。
- b 古典的なものから新しいものまで、話題になった著作は積極的に収集する。

### イ 社会思想

主要な社会思想家の著作は、体系的に収集する。

### ウ 政治学

一個人及び一団体に偏らずに日本を中心とし、外国に関しては主要なものを多様な観点に立って、バランスよく客観的な立場で書かれた資料を収集する。

### エ 議会

日本及び外国の議会制度に関する資料は、幅広く収集する。

### オ 政党

日本の政党・政治団体に関する主要な資料は、幅広く収集する。

### カ 地方自治

地方行政・都市問題・都市政策など、地方自治は、市民の身近な問題を多く含んでいるので、積極的に収集する。

### キ 法律

- a 各分野の基本書を体系的に収集する。
- b 主要な叢書類は、幅広く収集する。
- c 法令集・判例集は、体系的に幅広く収集する。
- d 法律書は、法改正に伴って常に新しいものを提供できるよう、資料の更新に留意する。

### ク 憲法・民法・商法・刑法

- a 多様な学説・資料を幅広く収集する。
- b 入門書・解説書から研究書まで、いろいろなレベルのものを収集する。
- c 市民生活と関わりの深い分野の法律は、実用的な資料も含めて収集する。
- d 時事的な主題に関する資料は、積極的に収集する。

### ケ 経済学

- a 入門書・解説書から研究書、古典的な著作まで体系的に収集する。
- b 多様な諸学説を幅広く収集する。
- c 日本経済史及び経済の動向に関する資料は、幅広く収集する。
- d 民族・宗教問題・人口問題・資源問題などの世界的な問題に関する資料は、積極的に収集する。

### コ 経営学

- a 入門書・解説書など利用の多いものを中心に幅広く収集する。
- b 事務のOA化など今日的な資料は、数多く収集する。

- c 財政・統計は理論書を除いては、最新の資料を提供できるように資料の更新を図る。
- d 投資・利殖に関する資料は、最低限度にとどめる。

## サ 社会学

日本人論・マスメディア論・同和問題・消費者問題・住宅問題・余暇利用に関する問題など社会的関心の高いテーマは、幅広く収集する。

## シ 労働問題

- a 労働時間・外国人労働力・成人の再教育など、今日的なテーマに関する資料は、幅広く収集する。
- b 職業案内や各種の資格試験に役立つ資料を収集する。

## ス 女性問題

女性の多様な問題に関する資料を幅広く収集する。

## セ 社会福祉

- a 高齢化に伴って派生する様々な問題に関する資料を幅広く収集する。
- b 今後の社会においてますます重要なテーマとなるので、多様な資料を幅広く収集する。
- c 老人福祉・障害福祉・児童福祉・災害・難民問題など今日的な問題は、継続的に収集する。

## ソ 教育

- a 一般の市民にとっても関心の高い分野なので、多様な観点・レベルの資料を収集する。
- b 主要な講座・叢書類は、積極的に収集する。
- c 教育政策に関わる基本資料と解説書も収集する。
- d 学校案内や受験案内は、資料の更新に留意しながら収集する。
- e 社会教育資料は、生涯学習の観点から幅広く収集する。

## ハ 冠婚葬祭

実用的な資料を幅広く収集する。

## ヘ 民族学

基礎的な理論書・入門書・概説書を中心に収集する。

## フ 国防・軍事

- a 基礎的な入門書・解説書及び記録的資料を中心に収集する。
- b 戦記・戦史は、できるだけ客観的な立場で書かれたものを収集する。

## (5) 4 部門 (自然科学)

### ① 収集基準

- ア 自然科学は、その進歩と変化が著しい分野なので、最新の情報を提供できるように資料の更新を図る。
- イ 入門書・解説書を中心に収集する。
- ウ 細分化された個別分野の高度な専門書は、収集しない。大学の一般教養レベ

- ルである入門書・解説書・概論・研究書までを広く収集する。
- エ 図鑑などのグラフィックな資料は、積極的に収集する。
  - オ 図書のみでなく、雑誌やデータベースを組み合わせ、新しい情報を提供できるようにする。
  - カ 「雪」に関する資料は、自然科学及び各部門にわたり網羅的に収集する。

## ②収集範囲

### ア 科学評論

科学と論理、科学と人間について書かれた資料は、多様な観点に立つ資料を幅広く収集する。

### イ 医学書

- a 入門書・解説書を中心に体系的に収集し、医師や医学書を対象とした高度な専門書は収集しない。
- b 医学と論理に関する資料は、非常に興味を持たれているテーマであるから積極的に収集する。
- c 健康法・闘病記に関する資料は、類書に留意しながら内容を検討して、収集する。

## (6) 5部門（技術・工学）

### ① 収集基準

- ア 科学技術の分野は、その進歩と変化が著しいので、最新の情報を提供できるような資料の更新を図る。
- イ 入門書・解説書を中心に収集する。
- ウ 科学技術の最新の動向について、分かり易く書かれた資料は、積極的に収集する。

### ② 収集範囲

#### ア 技術史・技術論

技術、工学と人間、あるいは社会との関わりについての問題など、一般市民にとっても関心のあるテーマは、ある程度専門的な資料も含めて幅広く収集する。

#### イ 都市工学

河川の汚染・ごみ問題・様々な公害・環境問題など、都市の抱える諸問題に関する資料は、市民にとって大きな関心ごとであるので、幅広く積極的に収集する。

#### ウ 建築

- a 日本建築史・西洋建築史を中心に、図集に重点を置いて収集する。
- b 住宅建築は、利用が多いので、実用的資料を幅広く収集する。
- c 設計に関する資料についても幅広く収集する。

#### エ 自動車

趣味や実用に役立つ資料を収集する。

## オ 原子力

- a 原子力に関わる基礎的・一般的な解説を中心に収集する。
- b 安全性について論議した本は、様々な観点に立つ資料を収集する。

## カ 電気通信・電子工学

オーディオ・ビデオなどの趣味に関する資料、新しい通信システムやコンピューターに関する資料は、最新の資料を数多く収集する。

## キ 生活科学

- a 実用的価値の高いものを豊富に収集する。
- b 流行や季節感に注意し、常に新しい資料を収集する。
- c 衣服は、洋服・洋裁を中心に収集する。
- d 手芸は、できる限り多種類の資料入門編から上級編まで収集する。
- e 美容は、実用的な資料を数多く収集する。
- f 料理は、日本・中国・西洋・その他幅広く収集する。
- g 住居・インテリアは、利用が多いので積極的に収集する。
- h 育児は、利用が多いので積極的に収集する。

## (7) 6部門（産業）

### ① 収集基準

- ア 一般市民が各産業の概略を理解するのに役立つ入門書・概説書を中心に収集する。
- イ 趣味や実用に役立つ資料は、数多く収集する。
- ウ 様々な産業に携わる人の実務に役立つ資料を積極的に収集する。
- エ 産業社会の新しい動向について、分かり易く書かれた資料は、積極的に収集する。
- オ 地場産業に関する資料は、郷土に含めて収集し、特に農林水産に関しては積極的に収集する。

### ② 収集範囲

#### ア 農業経済

農業問題・食糧問題など社会的関心を呼んでいるものは、積極的に収集する。

#### イ 園芸

利用の多い園芸を中心に趣味・実用に役立つ資料を幅広く収集する。

#### ウ 造園・公園

趣味や行政にも役立つ資料を幅広く収集する。

#### エ ペットの飼い方・家畜の飼育

趣味や実用に役立つ資料を幅広く収集する。

#### オ 森林保護・鳥獣保護・水産保護

自然保護など、時事性・話題性のある資料は、積極的に収集する。

**カ 商業通信・商業作文・商業語学**

いずれも、実用に役立つ資料を中心に幅広く収集する。

**キ 広告・マーケティング**

時事的な資料に留意し幅広く収集する。

**ク 貿易**

- a 入門書・概説書を中心に収集する。
- b 時事性・実用性にも留意して収集する。

**ケ 交通政策・都市交通・交通事故**

- a 自治体との関連で収集する。
- b 実用的な資料を収集する。

**コ 鉄道・切手**

鉄道ファン・切手ファンの趣味に役立つ資料を幅広く収集する。

**(8) 7部門（芸術・スポーツ）**

**① 収集基準**

- ア** 市民の教養・趣味・娯楽に役立つ資料を、鑑賞・研究と制作・実技などとの両面にわたり幅広く収集する。
- イ** 市民の趣向・流行に留意し、新しい分野の情報は、迅速に提供できるように努める。また、利用の集中する分野には、十分な量の資料を収集する。
- ウ** 一般の市民が趣味として芸術を楽しむ際に参考となる資料は、入門的なレベルから上級レベルのものまで数多く収集する。
- エ** 美術全集・画集・写真集などは、主要なもの、類書の少ないものを中心に収集する。
- オ** スポーツは、各種目にわたって入門的なレベルから上級レベルのものまで数多く収集する。また、新しいスポーツについても積極的に収集する。
- カ** 展覧会・演劇・映画のパンフレット類は、青森市で開催されたものを中心にできるだけ収集する。

**② 収集範囲**

**ア 芸術・理論・美学**

基本的な資料を収集する。

**イ 芸術史・美術史**

関心の高い分野を中心に幅広く収集する。

**ウ 美術評論**

時代を代表する評論・話題になった評論は、もれなく収集する。

**エ 美術全集**

- a 基本的なものを中心にできるだけ幅広く収集する。
- b 時代性を考慮したものを積極的に収集する。

## オ 彫刻・絵画・版画

- a 画集・作品等は、積極的に収集する。
- b 作家研究や作品研究は、基本的資料を収集する。
- c 制作技法に関する資料は、入門書を中心に幅広く収集する。

## カ 工芸

- a 各分野の基本書を市民の趣向に留意して収集する。
- b CD-ROMなどとセットになった図書なども、できるだけ収集する。

## キ 舞踊・バレエ

各ジャンルの基本書を体系的に収集する。

## ク 演劇

- a 各ジャンルの基本書を体系的に収集する。
- b 舞台芸術・舞台装置に関する資料も留意して収集する。
- c 時事性・話題性のある資料は、なるべく収集する。
- d 学校や地域で上演される演劇についての資料、また、それに役立つ資料を収集する。

## ケ 古典・芸能

日本特有の芸能なので、基本書を含め体系的に収集する。

## コ スポーツ・体育

- a 各種目・各競技ごとに基本書をもれなく収集する。
- b 初心者向けの入門書にも留意して収集する。
- c 市民の趣向・流行に留意し、新しいスポーツに関する資料を用意する。
- d スポーツ団体・学校・社会教育団体が指導や研究に役立つ資料を収集する。
- e プロ野球・大相撲・サッカーなど、スポーツ観戦の盛んな種目は、「観る」側からの資料も収集する。

## サ 趣味・娯楽

- a 各分野の基本書を体系的に収集する。
- b 初心者向けの入門書にも留意して収集する。
- c 市民の流行・趣向に合った資料を収集する。

## シ 音楽

- a 話題性の高いもの、時代を反映した資料を幅広く収集する。
- b 視聴覚資料・音楽映像ライブラリー等の調整をしながら資料を収集する。
- c クラシックやポピュラー等の主要な楽譜や楽器等の教則本も収集する。

## (9) 8部門 (語学)

### ① 収集基準

- ア 言語、あるいは日本語に関する入門書・概説書及び主要な著作を中心に収集する。
- イ 辞典類は、この分野の中心となる資料なので重点を置いて収集する。特に日本語の主要なものをもれなく収集する。また、貸出用の複本は、必要に応じて用意する。

- ウ 各国語の語学書は、中国語・韓国語・英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語を中心に収集し、その他の言語についてもできるだけ収集する。また、辞書類についても同様とする。
- エ 友好都市・姉妹都市等交流都市の資料は、積極的に収集する。

## ②収集範囲

### ア 言語学

語学研究、言葉の研究についての基本的な資料は、体系的に収集する。

### イ 話し方・会議法

実用的な資料を幅広く収集する。

### ウ 日本語

日本語論は、利用が多いので、幅広く収集する。

### エ あいさつ・スピーチ・手紙・論文

用語集・例文集などは、利用が多いので、実用に役立つ資料を幅広く収集する。

### オ 外国語

- a 国際化が進み、市民の語学に関する関心が高いため、広く学習や実用に役立つ資料を収集する。
- b 各国語の語学書は、もれのないように留意し収集する。
- c 対訳学習書も収集する。
- d 視聴覚資料がセットになった学習書についても収集する。

以下、特に重点的に収集する語学について列記する。

#### オー1 英語

- a 外国語の中で最も広く学ばれているので、重点的に収集する。
- b 学習書をはじめとして、社会人向けの読み物など、幅広く収集する。
- c 旅行・ビジネスに役立つ会話集など、実用的な資料も収集する。

#### オー2 韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語

上記の外国語は、○和辞典、和○辞典など、また、辞典以外についても、基本的資料や一般的な軽易なものを積極的に収集する。

#### オー3 その他の言語

上記以外の外国語は、○和辞典、和○辞典をはじめ、基礎的な資料を収集する。○和辞典のない言語については、○英辞典など収集する。

## (10) 9部門 (文学)

### ① 収集基準

- ア 市民の関心が高く最も利用の多い分野なので、各ジャンルにわたって、できる限り幅広く収集する。



- イ 入門書・概説書からある程度の研究書まで、多様なレベルの要求に応じられるよう体系的に収集する。
- ウ 全集・作品集に入っている作品でも、利用が多く見込まれるもの、また、単行本・文庫本の形態の方が利用しやすい作品は、単行本・文庫本を複本として収集する。
- エ 文庫でしか出版されていない作品で、利用が見込まれるものは、十分留意して収集する。
- オ 受賞作品は、もれなく収集する。
- カ 個人全集は、できるだけ幅広く収集し、主要な作品集、評価の高い個人全集は、もれなく収集する。

## ② 収集範囲

### ア 文学理論・作法

- a 文学批評・理論は、幅広く収集する。
- b 読み方、書き方の作法は、創作に役立つ資料を収集する。

### イ 文学史

利用が多いので、幅広く収集する。

### ウ 文学全集

評価の高いものを中心として、手軽に読めるようなものまで収集する。

### エ 日本文学

- a 古典は、できるだけ幅広く収集する。
- b 利用も出版点数も多いので、十分な量の資料を用意する。
- c 注釈書・書誌索引・作家研究・作品集は、できる限り収集する。
- d 近代文学研究及び近代以降の作品は、作品集を含めて幅広く収集する。
- e 現代の小説は、利用が多いので複本を含めて、幅広く収集する。

### オ 詩歌

- a 現代作家の詩歌・歌集・句集は、主要な作家のものを中心に収集する。
- b 古典の解説書は、評価の高いものを中心に幅広く収集する。
- c 「俳句の作り方」のような入門書も積極的に収集する。

### カ 戯曲

- a 主要な古典は、もれなく収集する。
- b 近代以降の作品は、評価の定まった作品を中心に幅広く収集する。
- c シナリオ文学に対する関心も高いので、主要な作家の作品を収集する。

### キ 小説・物語

- a 古典の解説書は、評価の高いものを中心に幅広く収集する。
- b 現代の小説は、最も利用が多い分野なので豊富に収集する。
- c 時事性・話題性のある作品に留意して収集する。

### ク 評論・随筆

- a 古典については、もれなく収集する。
- b 小説と並んでよく利用されるので、現代のエッセイなど豊富に収集する。

## ケ 日記・書簡・紀行

古典的作品から現代の紀行文まで幅広く収集する。

## コ ルポルタージュ

時事性・話題性のある作品に留意して収集する。

## サ 各国の文学

- a 各分野の基本的な作品、作品研究を体系的に収集する。
- b 単行本・文庫本の作品集などを組み合わせて、古典的作品から現代作品まで幅広く収集する。
- c 英文学は、利用が多いので、幅広く収集する。
- d 出版点数の少ない国の文学作品についても積極的に収集する。

## 「2」 特殊資料

### (1) 郷土資料

#### ① 収集基準

##### ア 郷土の定義と範囲

- a 現行の青森市の行政区画範囲を「郷土」と称する。
- b 青森県は、「郷土」の下位概念である。

##### イ 郷土資料の定義

- a 上記郷土の範囲についての歴史、地理（風土、自然）、経済、言語、民話、文化、産業、行政、統計、風俗、習慣、気質、写真、絵図等の記述を内容とするもの。（出版地、著作者を問わない。）
- b 郷土人の定義
  - イ 出生や来住を問わず「郷土」において活躍した、また、している人物。
  - ロ 郷土に出生し、他地で活躍した、また、している人物。
  - ハ 他地に出生した者で、幼少期に長く「郷土」に居住し他地で活躍した、また、している人物（出身と同等と見られる者）。
  - ニ その活躍が「郷土」に深い関係を持った、また、持つ人物。
- c 郷土人のうち、青森市出身者及び出身と同等に見られる者は、分野を問わずあらゆる著作。
- d 郷土で印刷、または刊行されたもので郷土と関係のあるもの。ただし、青森市で出版されたものは、分野を問わずあらゆる刊行物。
- e 郷土および郷土人を取り扱った文芸作品及び評論。
- f 郷土人の著述した文芸作品（内容は郷土に関係なくてもよい。）。
- g 郷土人の著述した芸術（美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽）部門の著作物（内容は郷土に関係なくてもよい。）。
- h 著作業を職業とする郷土人の著作物。
- i 郷土人の著述した大正時代以前の著作物。
- j 判定困難なものは、上記の基準の類推適用により判定する。
- k 歴史的地域は、現存する地域をあてはめる。

#### ② 収集範囲

- ア 類縁機関等の連携を取りながら収集する。
- イ 現資料が手に入らない場合は、手書き・複写などあらゆる手段を使って資料を作成すると共に、資料の所在を把握する。

- ウ 複数の資料を収集して、保存するもの以外は貸出を行う。
- エ 郷土資料の充実は、図書館だけの収集努力だけでは限界があるので、資料に関する情報・寄贈・執筆などあらゆる面で、市民及び関係機関の協力を仰ぎ資料の収集に努める。
- オ 青森県全体の動きを概観し得る資料（県史・年鑑概要・案内など）は網羅的に収集する。
- カ 特定の主題について、青森市を含め、青森県全体の動きを総括的に扱っている資料は、積極的に収集する。
- キ 個別自治体に特有の主題を扱っている資料で一般的なものは、幅広く収集する。
- ク 利用が多く見込まれる資料は、できる限り複本で収集する。
- ケ 形態
  - 以下の形態のものを収集する。チラシなどは、重点収集とし、青森県の資料は、冊子形式（図書・雑誌）のものを中心に収集する。
  - a 冊子形式のもの（図書・雑誌）
  - b 小冊子類（パンフレット・リーフレット・一枚刷り）
  - c 新聞
  - d 手書き資料・複写資料
  - e スクラップ類
  - f 各種チラシ
  - g ポスター類
  - h 写真
  - i 紙芝居
  - j 地図
  - k 視聴覚資料
  - その他必要なもの

## (2) 地域行政資料

### ① 収集基準

#### ア 地域の定義と範囲

郷土資料収集基準で定められた郷土の範囲

#### イ 地域行政資料の定義

- a 地方自治体が刊行する地方行政資料
- b 住民団体や市民団体などが刊行する地域に関する資料。
- c 国及びその関連機関の発行する資料のうち、地域に関する資料。
- d 青森県全体及び個別自治体の行政資料など、それぞれを概観できる資料。

### ② 収集範囲

青森市の発行する資料や青森市に関する資料は、網羅的に複数収集する。

#### ア 行政・地方行政

- a 自治体沿革・行政概要・長期計画・報告書・市勢要覧等関連資料をできる限り収集する。
- b 青森県及び個別自治体の基本的な動きを伝える資料は、網羅的に収集する。

#### イ 世論調査

できる限り収集する。

## ウ 広報・広聴

「自治体広報誌」をはじめ、関連資料を収集する。

## エ 財政

個別自治体に関する資料は、必要に応じて収集する。

## オ 議会・選挙

- a 議会・選挙・議会史・議会報・議事録等議会に関するものは、積極的に収集する。
- b その他は、必要に応じて収集する。
- c 選挙一般・地方選挙・国政選挙の記録・地方選挙の記録は、積極的に収集する。

## カ 法律

自治体例規集等を収集する。

## キ 経済

- a 各自治体の経済についての資料を収集する。
- b 企業・事務所は、市内・県内主要企業を紹介しているもの、県全体の企業を総括的に扱っている資料を収集する。

## ク 統計

- a 青森市・青森県の統計は、行政資料を中心に各種統計を積極的に収集する。
- b 個別自治体の統計は、その自治体の動きを総括的に扱っている統計を収集し、細かい個別分野の統計は、収集しない。

## ケ その他

個別主題の資料は、郷土資料との調整をしながら主に行政刊行物とする。

## (3) 海外資料

### ① 収集基準

- ア 外国人利用者が外国人同士、また、日本人との相互理解を深めそのコミュニケーションの場となるための、さらには、市民が多文化への理解を深めるための資料を収集する。
- イ 外国人利用者のための青森での又は、日本での生活情報などを幅広く収集する。
- ウ 外国人利用者は、自国の情報も求めていると思われるので、それらに関する資料を収集する。
- エ 日本語習得にかかわる資料を幅広く収集する。

### ② 収集範囲

#### ア 形態

- a 図書資料を中心に、以下の形態のものも積極的に収集する。
  - イ 新聞・雑誌

- ロ パンフレット・リーフレット・ミニコミ紙
- ハ 視聴覚資料

#### (4) 視聴覚資料

##### ① 収集基準

- ア あらゆる年齢層のニーズに柔軟に対応できるよう幅広く資料を収集する。
- イ 長期の保存および活用が見込まれるものを収集する。
- ウ 郷土に関するものや図書資料を補完する性格の強い記録的な資料は、特に留意して収集する。
- エ 収集する記録媒体の種類は、開発状況を考慮しながら随時検討する。
- オ 郷土資料、地域行政資料、海外資料、ヤングアダルト資料、障害者・アウトリーチサービス資料、ビジネス資料、児童資料は、各担当者の意見を参考にして選択、収集する。

##### ② 収集範囲

###### ア 音楽資料

###### a 音楽

各ジャンルにおける国内外の主要作品、評価作品を中心に収集する。

〈ジャンル〉

- イ クラシック (交響曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲&器楽曲、鍵盤楽曲、歌劇、声楽曲、その他)
- ロ ポピュラー (ジャズ&フュージョン、日本のロック&ポップス、外国のロック&ポップス、イージー・リスニング、サウンドトラック、その他)
- ハ その他 (童謡、民謡、純邦楽、民族音楽)

###### b 実用

BGM、自然音、効果音など幅広く収集する。

###### イ 映像資料

###### a 映画・アニメ

国内外の主要作品、評価作品を中心に収集する。

###### b 音楽

国内外の主要作品、評価作品を中心に収集する。

- c スポーツ  
各種スポーツの記録、解説など幅広く収集する。
- d 芸能  
古典芸能、落語、歌舞伎など幅広く収集する。
- e 教養  
歴史、紀行、科学、美術、語学など幅広く収集する。

## ウ 録音資料

- a 学芸・教養  
録音図書、諸芸、語学など幅広く収集する。

## (5) ヤングアダルト資料

### ① 収集基準

- ア ヤングアダルトの直面している問題・悩みに対しての資料を積極的に収集する。
- イ ヤングアダルトの関心の高い趣味・娯楽の分野の資料を幅広く収集する。
- ウ ヤングアダルトの学校・日常の生活に役立つ資料を収集する。
- エ 時代性を考慮し、常に新鮮な資料構成となるように努める。
- オ 図書館側の価値の押し付けとならないように努める。
- カ 資料の編集や装丁など、ヤングアダルトが親しみやすく、手にとりやすい物を心がけて収集する。

### ② 収集範囲

#### ア 図書

- a 一般・児童の収集範囲を留意しながら、分類にとらわれず、ヤングアダルトのための資料を幅広く収集する。
- b ヤングアダルトが興味・関心のある資料を収集するだけでなく、専門的な資料も各分野ごとに収集する。
- c 他のコーナーにある資料でも、必要なものは収集する。
- d 創作マンガは、以下の点に留意し収集する。
  - イ 人間の尊厳性を肯定しているものを収集する。
  - ロ 時代性を反映しているものを収集する。
  - ハ 受賞作品及びその候補作や評価の高い作品・作家を主に収集する。

#### イ 新聞・雑誌

- a 新聞は、ヤングアダルトが読者層となっているものを収集する。
- b 雑誌は、ヤングアダルトにとって新鮮で貴重な情報源となっているので幅広く収集し、随時見直しするように努める。
- c 特に、ヤングアダルトの関心の高いファッション、音楽、スポーツ等の趣味・娯楽の分野は、積極的に収集する。

#### ウ 視聴覚資料

図書の収集範囲に準ずる。

## エ パンフレット・リーフレット・ポスター・ミニコミ資料

- a 学校や地域でのイベントなど、地域に密接した情報を収集するように努める。
- b ヤングアダルトが自発的に作成した資料も収集するように努める。

## (6) 障害者・アウトリーチサービス資料

### ① 収集基準

視覚・聴覚や心身に障害のある人、また、来館が困難な人や異文化を持つ人など、図書館利用に障害のある人々の要求に応えるために、それぞれの状況に応じた最も利用しやすい形でサービスを行うための資料を収集する。

### ② 収集範囲

#### ア 点字図書及び雑誌・録音図書及び雑誌・拡大写本

各種のものを幅広く収集する。市販されているものが少ないと思われるので、必要があれば資料の製作を行う。

#### イ 大活字本

弱視者のみならず、これからの高齢化社会において、要求度が高いものと思われるので、積極的に収集する。

#### ウ 字幕・手話入りビデオ

聴覚障害者用のビデオは、出版点数が少ないができるだけ収集する。

#### エ さわる本・布の絵本・おもちゃ

障害児だけではなく、誰でも楽しむことができる資料なので、できるだけ収集する。

#### オ 各種団体機関誌・パンフレット

市内及び近隣の関係機関が製作している機関誌・パンフレットは、できるだけ収集する。障害者関係、サークル、ボランティア団体の会報、情報なども資料としてできるだけ収集する。

#### カ 障害者を支援する人々にも役立つ資料を積極的に収集する。

#### キ 電子資料等も積極的に収集する。

#### ク 各関係機関等の所蔵目録を網羅的に収集する。

## (7) 新聞・雑誌資料

### ① 収集基準

ア 新聞・雑誌は、図書館資料のなかでも最新の情報を提供するものであるため、その特性を活かし、多分野にわたって幅広く収集する。

イ 市民の日常生活に役立つ情報や趣味の雑誌など、市民の多様な興味・関心に応

- じて収集する。
- ウ 市民の調査研究に役立つもので、各分野の基本的なものを中心に収集し、必要に応じて高度な専門誌なども収集する。
  - エ 利用の多いものは、複本で収集を行い、随時新規購入、タイトル変更を検討する。また、紛失等により欠号したものはその補充に努める。

## ② 収集範囲

### ア 新聞

全国一般紙、青森県内発行のものを中心に近隣諸地域の地方紙、スポーツ紙、児童・ヤングアダルト向けの新聞、代表的言語及び市内在住の外国人向けの外国語新聞、経済紙・出版・書評紙などの専門紙、各種団体発行紙・政党機関紙、官報・県報など主要な日刊紙を中心に収集する。

### イ 雑誌

- a 総合誌、文芸誌、レジャー・趣味・スポーツ誌、女性誌、家庭・生活誌は、各分野の主要なものを収集する。
- b 児童・ヤングアダルト向け雑誌は、各収集方針に従い収集する。
- c 障害者及びその関係者を対象とした雑誌を収集する。
- d 外国語雑誌は、新聞の収集範囲に応じて、各言語圏の代表的なものを収集する。
- e 人文・社会・自然科学の各分野から基本的なものを中心に、レファレンスコレクションとして、有用な専門誌を収集する。
- f 郷土雑誌は、できるだけ収集する。特に、市内発行のものは、網羅的に収集する。
- g 出版社・官公庁などの各種団体・機関発行誌は、必要に応じて収集する。

## (8) ビジネス資料

### ① 収集基準

経営、管理、企画、交渉術、人脈など、様々なビジネスシーンをバックアップする最新の資料を積極的に収集する。

### ② 収集範囲

- ア 仕事に役立つ資料をテーマ別に幅広く収集する。具体的には、次に掲げる主題を取り扱う資料を中心に収集する。  
企業経営(335)経営管理(339)貨幣・通貨(337)金融・銀行(338)保険(339)財政(340 - 349)統計(350)商業全体(670 - 678)
- イ 雑誌は、ビジネスに関するものを収集する。
- ウ 視聴覚資料もビジネスに関する資料を収集する。

## (9) 児童資料

### ① 収集基準

- ア 各分野の評価の定まった資料（以下「基本図書」という。）は、もれなく、かつ十分な複本を揃えて収集する。また、これらの基本図書は、日常的に維持・更新して欠本の生じないようにする。



- イ 基本図書のリストは、「基本図書リスト」として公開する。
- ウ 各分野の評価の定まらない資料であっても研究資料として必要なものもあるので、主なものはできるだけ収集する。
- エ 児童資料は、各ブックリストや書評などで高い評価を得ているものであっても品切れ、絶版となるものが多数あるので、品切れ、絶版となった基本図書の保有に努める。

## ②主題別収集範囲

### ア 絵本

絵本は、子供が最初に出会う本である。心にやきついて離れない絵本の 1 場面は、子供の読書の第一歩として欠かせないものとなることから、子供の知的、情緒的経験を広げ想像力を豊かに養うものを中心に幅広く収集する。

- a 基本図書リストにあげられている絵本は、もれなく十分な複本を揃えて収集する。
- b 評価の定まった絵本作家の作品は、できるだけ収集する。
- c 原書の絵本も収集する。評価の高い作品、評価の定まった絵本作家の絵本を中心に収集する。また、少ない点数であっても、様々な国の絵本が揃うように努める。
- d 赤ちゃん絵本も読み手である大人とのコミュニケーション、スキンシップを深めるものとして、積極的に収集する。

### イ 絵本全般

- a 絵がストーリーを語っていること。
- b 表現が豊かで、子供の想像力、空想の力をはばたかせるものであること。
- c 絵と文との調和が取れていること。
- d 絵としての芸術性があること。
- e 子供が理解できる表現、内容で簡潔に書かれていること。
- f 一貫した文体で書かれていること。
- g 創作絵本は、オリジナリティがあること。
- h 古典・名作は、無理に対象年齢を下げて絵本化していないこと。
- i 子供のために出版されたものであること。

### ウ 知識絵本

- a 子供の探求心を刺激し、科学的興味を持たせること。
- b 最新の正確な知識に基づいて、用語やその使い方が正しいこと。
- c 素材のとりあげ方に独創性があること。
- d 主題に一貫性があり、ポイントをきちんと書いてあること。

### エ 赤ちゃん絵本

- a 言葉が簡潔でリズムカルであり、心地よく響くこと。
- b 取り上げる素材は身近なもので、生活体験に根差し、その体験を広げてくれること。
- c 色と形が鮮明で、温かさを感じさせること。
- d 大人との対話や楽しい遊びへと誘うことができること。
- e 小型版で壊れにくいこと。

## オ 文学

子供にとって、自分たちの抱えている疑問、喜び、悲しみなどは、すべて文学として語られることになる。したがって、豊かな創造力や空想力を養い、子供の視野を広げるものや心に温かな感動を与え成長の糧となるような本を選ぶ。また、文学としての質の高さと共に、子供が面白く楽しんで読めるような本を収集する。

- a 基本図書は、もれなく十分な複本をそろえて収集する。
- b 評価の定まった作家の作品は、できるだけ収集する。
- c 古典から、現代の日常的な出来事を扱っている作品まで、幅広く収集する。
- d シリーズはまとめて収集するのではなく、一冊ずつ検討する。
- e 詩歌、戯曲なども収集する。

## カ 幼年文学

この年齢は、少しずつ本が読めるようになる一方で、長い話も喜んで聞くようになる時期である。したがって、読書の楽しさが分かり、本への信頼が作られる時期なので、その楽しみに十分浸れるよう、質の高い本を種類、量とも十分に揃え、子供が常に手に取れるよう配慮する。

- a 題材が身近なもので、その世界や経験を広げてくれるものであること。
- b 視点が一定していて、子供が主人公と一体化できること。
- c 筋は、起承転結が分かりやすく構成され、最後に読者を満足させる結末であること。
- d 独創的で、新鮮な筋であること。
- e 登場人物が魅力的であること。

## キ 創作文学

- a 筋が独創的で必然性があるもの。
- b 構成は、順を追って分かりやすいもの。
- c 登場人物は、類型的にならず作品の中で生きていること。
- d 何人称で語られていても、視点が一定していること。
- e テーマは、作品を通して語られていること。
- f 真実らしさをもっていること。

## ク 古典名作

ダイジェスト版は、原作の持ち味を保ちつつ、それ自体として文学の内容と質を備えているものを収集する。

- a 外国の古典名作は、完訳版が望ましい。
- b 原典への興味をそそるような解説があること。

## ケ ファンタジー

- a 現実から非現実への移行がスムーズに行われていること。
- b もう一つの世界が目に見えるように書かれていること。

## コ 昔話

- a 民俗学からの視点ではなく、子供の文学の原点として位置づけ、積極的に収集する。
- b 昔話を生んだ国や地域の性質・雰囲気が反映されているものを収集する。

- c 残酷であることや教育上・道徳上好ましくないという理由で削除したり、書き換えたりしていないか注意する。
- d 各国、各地の資料を幅広く収集する。

## サ ノンフィクション

- a 自然や科学への興味を呼び起こし、科学的な考え方や物の見方を育て、将来に向けて子供の視野を広げる資料を収集する。
- b 子供の発達段階に応じて、理解しやすい内容で表現方法にも工夫のあるものを収集する。
- c 幼児から中学生までの知識・学習・娯楽に役立つ資料を収集する。
- d 利用が集中する分野は十分な複本を収集する。
- e 必要によっては、成人向けの資料も収集する。

## シ 総記

子供たちの宿題や自由研究に応えられるよう、百科事典を中心に調査研究のための資料を収集する。

- a 百科事典は、五十音順、主題別など様々な構成のものを収集する。
- b 図鑑類は、体系的に編成されているものを収集する。
- c 幼年向きは、不十分な資料もあるので留意し収集する。

## ス 哲学(哲学・心理学・宗教)

- a 分かりやすい哲学・倫理・思想・宗教の資料を収集する。
- b 心霊研究・星占いは、興味本位でなく科学的な立場から記述された資料を収集する。
- c 人生や生き方・考え方について書かれた資料は、生きていくうえで視野を広げられるような魅力にあふれた資料を収集する。

## セ 歴史(歴史・伝記・地理)

- a 利用も多く出版点数も多いので、体系的に収集する。
- b 社会科学習との関連に留意して、資料を収集する。
- c 図版・写真・イラストなどを使った資料に留意する。

## ソ 日本史・世界史

- a 各種年表・辞典・地図なども収集する。
- b 通史は、正確で信頼性のあるものを収集する。
- c 歴史観の相違から記述に差があるので、異なる出版社の一定水準に達したものを何種類か収集する。
- d 戦争については、実証的に書かれた本を積極的に収集する。

## タ 地理

- a 日本国内の各地域及び世界各国の資料を最新の資料に留意し、体系的に収集する。
- b 東北地方や青森県の資料は、積極的に収集する。
- c 修学旅行や社会見学に役立つ資料を収集する。
- d 地図は、冊子形態の資料を収集する。

## チ 社会科学(政治・経済・教育・民俗)

- a 社会についての基礎的な知識が得られ、自分と社会の結びつきを考えられる

- ような資料を収集する。
- b 身近な社会の問題から世界的な問題を扱った資料まで幅広く収集する。
- c 社会の新しい動向について記述されている資料に留意し収集する。
- d 多様な対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。
- e 社会科学習に役立つ資料を収集する。
- f 戦争・兵器等を著しく賛美する傾向のものは留意する。
- g 民俗・年中行事・祭り・風俗習慣について幅広く収集する。

## ツ 自然科学(数学・物理・化学・生物・医学)

- a 子供の科学的なものの見方・考え方を育てる資料を体系的に収集する。
- b 子供の旺盛な知識欲に応えられるよう、多様なテーマの資料を収集する。
- c 自然に対する興味を深め、子供と自然とのふれあいの手引きとなるような資料を収集する。
- d 子供の発達段階に応じた資料を収集する。
- e 実験や観察の資料は、結果だけでなく過程や考え方を重視しているものを児童の理解力や安全性に留意して収集する。
- f 図鑑等は、目次・索引が整備されていて検索しやすい資料を収集する。
- g 科学・技術の進歩にあわせ内容の新しさに留意する。

## テ 地学

天気・気象・古代生物は、正確さに留意して幅広く収集する。

## ト 医学

- a 人体の資料は、正確で新しく科学的な内容のものを収集する。
- b 人体と栄養・病気・医療と暮らしに関して、分かりやすく書かれているものを収集する。
- c 性・誕生・身体的発達に関する資料は、科学的に正確で、人間の尊厳を守るように書かれてあるものを収集する。

## ナ 技術(工学・家政学)

- a 最新のデータ、情報に基づいて書かれているものを収集する。
- b 公害・エネルギー関係は、公正な立場で記述された資料を収集する。
- c 公害・環境問題は、様々なレベルの資料を幅広く収集する。
- d 自動車・電車等利用の高いものは、幅広く収集する。

## ニ 家政学

- a 手芸・料理などの資料は、子供たちが心から楽しみ、遊べるような娯楽性、実用性の高い資料を数多く収集する。
- b 料理・手芸等は、内容が適切であるかどうか、器具の扱い方に危険がないかどうかに留意しながら収集する。
- c 美容・おしゃれに関する資料は子供にとって相応しいかどうか十分留意して収集する。

## ヌ 産業

- a 社会科学習との関連が深いので、各種産業に関わる多様な資料を収集する。
- b 産業界の新しい動向に触れた資料に留意して収集する。

## ネ 園芸・畜産業

- a 草花の栽培や生き物の飼い方などの資料は、子供に人気があるので、実用性の高いものに留意し収集する。

## ノ 芸術(芸術・スポーツ・娯楽)

- a 利用の多い分野なので、各分野の基本となる資料を体系的に収集する。
- b 子供たちの興味や流行に留意して、最新情報を提供できるように資料を収集する
- c 図説・イラスト・写真を効果的に使った資料は、留意し収集する。
- d 子供たちが心から楽しめる資料を収集する。

## ハ 美術

- a 基礎的な鑑賞入門及び技法書を中心に収集する。
- b 各分野の理論・歴史・作品集は、体系的に収集する。

## ヒ 工作

- a 昔のおもちやの作り方も含め、幅広く収集する。
- b 様々なレベルの資料も収集する。

## フ 音楽

- a 各種の音楽についての資料及び合唱の資料などは、理論書・実用書を体系的に収集する。
- b 童謡は、積極的に収集する。

## ヘ スポーツ

- a 各種スポーツの歴史、ルール、練習法などを体系的に収集する。

## ホ 娯楽

- a 子供の流行に留意し、遊びに関する資料は、積極的に収集する。
- b 実用性の高い資料を十分に収集する。
- c 釣り等は、実際にあたり危険がないかどうか留意して収集する。

## マ 言語

- a 国語の学習に役立つ資料は、種類を十分に収集する。
- b 辞典類は、数種類収集する。
- c 子供向けの外国語入門書も収集する。

## ミ 紙芝居

読むことによって、大勢の子どもが喜びを共有でき楽しめる内容のものを収集する。

- a 絵柄は分かりやすく色彩が鮮明で筋を追って絵に動きがあり、説明がその展開にのっているものを収集する。
- b 紙質は、厚手である程度の硬さのあるものを収集する。

## ム 郷土資料

- a 子供の調査研究に役立つよう、地域に関する資料を収集する。
- b 青森市を主題とした資料は、網羅的に収集し、また、青森県に関する資料も積極的に収集する。

- c 利用が集中する主題や資料は、複本や類書を十分に収集する。
- d 成人向け資料であっても、子供の利用に適する資料であれば収集する。
- e 図書だけでなく、児童向けの各パンフレット類も収集する。

#### メ 視聴覚資料

- a 図書の収集基準に準ずる。
- b 子供たちはもちろん、親子で楽しめる作品や音楽など、質の高い視聴覚資料を収集する。

#### モ 児童文学研究資料

- a 子供の本と読書に関する資料を収集する。
- b 児童文学論・児童文学史・作品、作家研究・各種リストは、積極的に収集する。
- c 母親はもちろん、地域文庫、子供会、教師、保母、学生などの児童文化活動に携わる人たちのために、児童文化全般の中から必要なものを幅広く収集する。
- d 図書だけでなく、雑誌やパンフレット類も収集する。

#### ヤ 雑誌・パンフレット

- a 子どものニーズにこたえる雑誌を収集する。
- b 児童文学研究資料となりうる雑誌を収集する。
- c レファレンス資料としてパンフレット等を収集する。

### (10) 館外サービス資料

#### ① 収集基準

館外サービスは、図書館から離れた地域の人々及び学校、各種公共施設においてサービスを提供することが目的であり、その利用者は主に高齢者や子供たち、そして、主婦層である。これらの人々に読書の喜びを与え、また利用者の要求に応えるために地域のニーズに沿った資料を収集する。

#### ② 収集範囲

##### ア 一般書

- a 小説・エッセイ  
市民の関心が高く、最も利用の多い分野なので豊富に収集する。また、話題性の高いものは、複本で収集する。
- b 実用書  
主題別のニーズを把握し、豊富に収集する。また、破損度も高いため、常に新鮮な資料を収集する。
- c 雑誌  
利用者のニーズに応じて収集する。

##### イ 児童書

基本図書を複本で収集し、日常的に維持・更新を図るようにする。また、子供たちが楽しめる実用書・学習面で役立つ資料も豊富に収集する。

## (11) 電子資料

### ① 収集基準

- ア 社会の情勢に柔軟に対応できるよう幅広く資料を収集する
- イ 収集する記録媒体の種類は、開発状況を考慮しながら随時検討する。
- ウ 郷土資料、地域行政資料、海外資料、ヤングアダルト資料、障害者・アウトリーチサービス資料、ビジネス資料、児童資料は、各担当者の意見を参考にして選択、収集する。

### ② 収集範囲

#### ア パッケージ系(CD-ROM、FD、DVD等)

- a 冊子体で所蔵している出版物（百科事典、辞書、辞典、図鑑、年鑑、白書等）のCD-ROM版を収集の対象とする。
- b 児童向けの図鑑等は、冊子体で出版されていないものについても収集する。
- c 冊子体で出版されているものであっても、ゲーム的要素の高いものは、収集の対象としない。

#### イ 通信系(電子雑誌、オンラインデータベース、ホームページ)

これまで収集している資料とは形態及び提供方法が全く異なるため、市民のニーズに対応できるよう随時検討する。

## 3. その他

### (1) 図書資料選択の基本ツール

資料の選択は、基本的に下記の資料を参考とする。

#### ① 一般図書・児童図書共通

- ア 選定図書速報 (日本図書館協会)
- イ 週刊日販速報 (日本出版販売(株))
- ウ 東販週報 (東京出版販売(株))
- エ 出版ニュース (出版ニュース社)
- オ これから出る本 (日本書籍出版協会)
- カ 週刊読書人 ((株) 読書人)
- キ 図書新聞 ((株) 図書新聞)
- ク 各新聞の出版情報欄

#### ② 一般図書

- ア 現代の図書館 (日本図書館協会)
- イ 日本の参考図書 ( " )

ウ	近刊案内	(図書流通センター)
エ	新刊図書目録	(東京出版案内(株))
オ	新刊ニュース	(           〃          )
カ	月刊政府刊行物	(全国官報販売協同組合)
キ	出版ダイジェスト	(出版ダイジェスト社)
ク	出版社のパンフレット	
ケ	出版社の目録・PR誌	
コ	青森県郷土資料新収目録	(青森県図書館連絡協議会)
サ	青森県地方出版物流通センター広報	

### ③ 児童図書

ア	学校図書館速報版	(全国学校図書館協議会)
イ	学校図書館基本図書目録	(           〃          )
ウ	よい絵本	(           〃          )
エ	えほんのもくろく	(日本図書館協会)
オ	子どものしあわせ	(草土文化)
カ	子どもと読書	(岩崎書店)
キ	こどもの本	(日本児童図書出版協会)
ク	どの本よもうかな	(日本子どもの本協会)
ケ	子ども図書館	(東京子ども図書館)
コ	私たちのえらんだ子どもの本	(           〃          )
サ	科学の本っておもしろい	(科学読物研究会)
シ	子どもの本棚	(日本子どもの本研究会)
ス	日本児童文学	(教育出版センター)

### ④ 視聴覚資料

ア	音楽の友 (別冊として出版目録が出る)「室内音楽名典 500 資料編」
イ	「日本映像メディアデータブック」 (日本視聴覚教育協会編)
ウ	ビデオソースブック (シービーエス (株))
エ	NHK 視聴覚教材目録
オ	CD ジャーナル
カ	世界 CD-ROM 年鑑
キ	CD-ROM 総覧